

慈明院寺報 六月号

いちりゅうまんばい
一粒万倍



慈明院のご本尊様である大黒天は、亡くなった

祖父・慈水が祀っていた仏様である。お寺をはじめる前に様々な仕事をして
いた祖父は、商売繁盛の願いを桜の木でできた大黒様に願掛けしていた。
この仏様をご本尊様として、約五十年前に慈明院は開かれたのである。

「これより小さな寺は日本にない。それなら大きくするしかなかろうが。」
父が祖父に諭された言葉である。(うまく煽てられたのか?) それから
少しずつ境内を広げ、お堂を整備して慈明院の礎ができた。お寺の基礎が
できた事に祖父は感謝して、大黒様へ恩返しをする事をはじめた。
自ら粘土をこねて、型枠で造成して大黒様を作りはじめたのだ。それが現在
慈明院の本堂内陣の壁面に九百体安置されている大黒様(右写真)である。

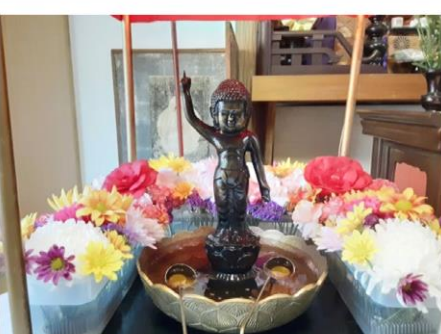
『一粒万倍』という言葉がある。仏教の報恩経という經典から出た言葉で
わずかなものが非常に大きく成長する事の例えである。だからこそ少しでも
粗末にしてはならないという教えを含んでいる。また稲の別名を一粒万倍と
呼ぶ事もある。慈明院は祖父と父が、大黒様という種子をまいて約五十年。
一粒万倍の例えの如く、お寺を建立する事ができた。

今年も祖父が魂を込めた大黒様に囲まれて、各家々の大黒様を迎えて
お浄めの護摩を焚く「大黒天里帰り法会」の時期がやってきた。大黒さんの
姿を見て思う。手に持つ小槌は芯棒(辛抱)、担ぐ袋は堪忍袋、どちらも
荷物に違いない。それでも笑う大黒さん。一粒万倍、笑う門には福来る。

住職 合掌

花まつりを開催

去る四月一日〜八日、大師堂に花御堂を据え誕生仏(お釈迦様)を安置
して、甘茶をそそいで供養する『花まつり』を開催しました。ご参拝頂き
ました皆様、ありがとうございます。



大黒天里帰り法会のご案内

来る令和四年 六月五日(日曜日) 午前十一時より



*おまつりされている大黒天のご尊像をご持参下さい。護摩供養の炎にて
お浄め致します。昼食は、お接待お配り致します。参拝の難しい方は
大黒様をお迎えに伺います。また郵送して頂いても結構です。どうぞ
別紙参照の上ご参拝下さい。(ご参拝の時はマスク着用をお願い申し上げます。)

じみょういん

慈明院(〒八一一一三三 福岡市早良区大字西二三四一(二〇))

TEL (〇九二) 八〇四四五七〇 FAX (〇九二) 八〇四四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇-(五二八一)-七四九四